

ケアの倫理

ネオ・リベラリズムへの反論



ファビエンヌ・ブルジェール

フランス・ボルドー第三大学哲学科 教授

■逐次通訳あり

通訳者：原山 哲（東洋大学）

フランス社会において、合衆国のフェミニスト心理学者であるキャロル・ギリガンの『もうひとつの声』がどのように受容され、どのような展開をみせているのか、「ケアの倫理」が、世界を席卷しているネオ・リベラリズムへの抵抗の論理・倫理を示していることを、フランス社会を背景にしながら論じます。



同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス（正義）という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 7月25日(金)

18:30-20:00

入場無料
申込不要

会場： 志高館 SK119教室

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科

Tel.075-251-3930 / E-mail: ji-gs@mail.doshisha.ac.jp